

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

EVIDENTIARY DOCUMENT NUMBER 2224

TITLE: Documents relating to the instructions of Total War
Institute.

SOURCE: Cabinet Secretariat

MICROFILMING

Document 2224 Source: Cabinet Secretariat
has been microfilmed on 22 Oct 1948 for
permanent historical record.

(None) (Part) of this document had been extracted for court use.

F. MATTISON
Files Unit
Document Division

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 2224

25 June 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Documents relating to the instructions of Total War Institute.

Date: April 1942 Original Copy Language: Japanese

Has it been translated? Yes No

Has it been photostated? Yes No

LOCATION OF ORIGINAL

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: Cabinet Secretariat

PERSONS IMPLICATED:

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Instructions of Total War Institute

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

Document contains:

Various principles of economic and diplomatic moves in total warfare outlined, including history of same.

Most significant items are those pages which outline procedure and tie-up members of Foreign Office, Bank of Japan, and other governmental organizations, with posts in the total War Research Institute.

Analyst: W.H.Wagner

Doc. No. 2224

教務関係書類
#2224

秘

昭和十七年度

教務関係書類

17

原所員

Pr. No.	113
S. A. No.	15022-I
Sack No.	
Item No.	17

佐木以貴



教育訓練實施

日	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	
四月	水	木	金	土	火	水	木	金	土	火	水	木	金	土	火	水	木	金	土	火	水	木	金	土	火	水	木	金	土	火	水	
五月	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	
六月	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土
七月	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金
八月	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水
九月	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木	火	土	金	水	木

備考
 一〇印八講義演練ノ時間ヲ示ス
 七月十三日以降ハ保健体育ヲ課ニ毎日ニ

講義 演練
 予備 音
 予備 音
 合計
 訓練 行 育 行

He 2-2 #1

所長達第三二號

昭和十七年四月一日

總力戰研究所長 遠藤喜一

達

第二期研究生研究室所屬ヲ左ノ通定ム

記

第一室

磐瀨太郎

伊藤嘉彦

川上清康

玉越勝治

双川喜文

水野勳

山津善衛

第二室

大塚茂

小池謙一

小林信明

鈴木榮次

橋本正之

藤卷吉生

2

第三室

淺野正徳

中西泰男

漆野壽一

夏目忠雄

兼松 學

久保田藤麿

曾野 明

第四室

芥川 典

渡邊一郎

熊谷卓次

佐久間亨

森河 博

箕山晴二

第五室

庵地保彦

山本勝郎

江口俊男

須江英雄

高岡文夫

村上一

第六室

井上勝英

山地八郎

尾田定顯

小山進次郎

榊原正次

星野毅子郎

秘

昭和十七年度外國情勢講義豫定

地域	回数	事項	擔當者	備考
滿洲	一	經濟 ()	本多所員	
支那	三	政治 () 泰 治 () 比 爾 馬 印 度 () 比 島 () 蘭 印 ()	太田書記官 (外務省) 柿坪事務官 (外務省) 新納總領事 (外務省) 石澤總領事 (外務省)	
一般	二		西村所員 萩原所員	
計	二八		計畫者 桑原所員	

昭和十七年度外國情勢講義豫定月割表

		四月三回
		一般(一)
計畫者 桑原 所員	印度() 林正事務官(外務省) 比島() 新納總領事(外務省) 閩印() 石澤總領事(外務省)	南洋() 濠洲() 佐々木所員 現下國際情勢ノ解説 萩原所員 國際情勢ノ發展史の解説 西村所員

第 六 回	第 五 回	第 四 回	中 回
中 月 六	中 月 五	中 月 五	中
<p>全 右 外交戦史 (第二回)</p>	<p>外交戦史 外交的國家意思決定ノ 経路 (第一回)</p>	<p>總力戰ニ於ケル外交戰 ノ本質、基本原則及ヒ 運用 第四回</p>	<p>第 三 回</p>
<p>桑 原 所 員</p>	<p>桑 原 所 員</p>	<p>桑 原 所 員</p>	
	<p>明治、大正、昭和三代ニ亘リ、日清、日露兩戰役、歐洲大戰參戰「シベリヤ」出兵、講和會議、滿洲事變、支那事變ヲ通ジテ現レタル外交的國家意思決定ノ経路ヲ解説シ國內後稱ニ關聯シ外交戰ノ運用ニ關シソノ意義ヲ把握セシム</p>	<p>總力戰ニ於ケル外交戰ノ基本原則 (其ノ二) 一、制約外交 二、重點外交 三、戰後經營ノ外交 四、戰域外交 五、戰域外交</p>	<p>三、外交戰ニ於ケル武力戰ノ關係 四、武力戰ニ於ケル外交戰ノ關係 五、武力戰、外交不可分論</p>

秘

佐々木所員

外交戰教科目實施豫定表

回数	第一回	第二回	第三回
實施豫定	四月二〇日	四月三〇日	五月五日
題目	第一回 總力戰ニ於ケル外交戰ノ本質、基本原則及ヒ運用	第二回 總力戰ニ於ケル外交戰ノ本質、基本原則及ヒ運用	總力戰ニ於ケル外交戰ノ本質、基本原則及ヒ運用
擔當者	西村所員	桑原所員	桑原所員
內容ノ概略	總論 總力戰ニ於ケル外交戰ノ本質ヲ發生學的ニ考察ス	總力戰ニ於ケル外交戰ノ本質 外交ニ於ケル國家安全保障問題 國家安全保障問題ヲ中心トセル明治以後ノ外交推移ヲ概説ス	總力戰ニ於ケル外交戰ノ基本原則 (其一) 先行スル外交戰 (其二) 先行スル外交戰 (其三) 先行スル外交戰

第	第九回	第八回	第七回	回数
	六月	六月	六月	豫定
外交戦史	外交戦史 日清、日露兩戰役滿洲 支那兩事變開戦前ノ皇 國外交	總力戰ニ於ケル外交戦 ノ本質、基本原則及ヒ 運用 第六回	總力戰ニ於ケル外交戦 ノ本質、基本原則及ヒ 運用 第五回	題目
	西村 所員	西村 所員	榮原 所員	擔當者
		總力戰ニ於ケル外交戦ノ運用 開戦前ノ外交戦 一、目標 二、大勢順應 三、大勢誘致 四、必勝ノ具體化 五、戰爭終末ノ見込及ヒ信念	總力戰ニ於ケル外交戦ノ運用 開戦前ノ外交戦 一、目標 二、大勢順應 三、大勢誘致 四、必勝ノ具體化 五、戰爭終末ノ見込及ヒ信念	總力戰ニ於ケル外交戦ノ運用 一、國內機構ノ實情ト理想 二、國外機構ノ實情ト理想 三、外交內容ノ變遷 四、立體外交機構ノ提唱

第三十回	第二十二回	第十一回	第十回
七月	六月	六月	六月
<p>總力戰ニ於ケル外交戰ノ運用 ノ本質、基本原則及ヒ</p> <p>第八回</p>	<p>總力戰ニ於ケル外交戰ノ運用 ノ本質、基本原則及ヒ</p> <p>第七回</p>	<p>外交戰史 第二次世界大戰ニ於ケル英獨ノ開戰前外交</p>	<p>第一次世界大戰ニ於ケル英獨ノ開戰前外交</p>
西村所員	桑原所員	西村所員	西村所員
<p>總力戰ニ於ケル外交戰ノ運用 講和外交戰ニ先行スル武力戰 一、外交戰ニ先行スル武力戰 二、目録ノ確定 三、再動員ノ困難 四、大勢ノ誘致 五、講和條約ノ技術的問題 六、戰後經營ノ問題</p>	<p>總力戰ニ於ケル外交戰ノ運用 一、武力戰ニ於ケル外交戰 二、講和目標ノ確定 三、内國ノ輸備ノ重要性 四、大勢ノ誘致 五、總力戰ノ消極的意義</p>		

第 十 九 回	第 十 八 回	第 十 七 回
九 月 中	八 月 中	七 月 中
<p>第十回</p> <p>總力戰ニ於ケル外交戰ノ本質、基本原則及ヒ運用</p>	<p>第九回</p> <p>總力戰ニ於ケル外交戰ノ本質、基本原則及ヒ運用</p>	<p>外交戰史</p> <p>滿洲事變、支那事變ニ於ケル皇國外交戰</p>
<p>桑原所員</p>	<p>桑原所員</p>	<p>桑原所員</p>
<p>將來皇國外交戰ノ運用（其ノ二）</p> <p>一、世界政策ノ理念ト實際ノ世界政策</p> <p>二、過云ニ於ケル世界政策ノ理念</p> <p>三、皇國世界政策ノ建設</p> <p>四、皇國世界政策ノ施行</p> <p>五、皇國世界政策ノ施行</p>	<p>總力戰ニ於ケル外交戰ノ運用</p> <p>將來皇國外交戰ノ運用（其ノ二）</p> <p>一、明治、大正、昭和三代ノ皇國外交戰ノ發展の考察</p> <p>二、昭和三代之皇國外交戰ノ發展の考察</p> <p>三、昭和三代之皇國外交戰ノ發展の考察</p> <p>四、昭和三代之皇國外交戰ノ發展の考察</p> <p>五、昭和三代之皇國外交戰ノ發展の考察</p>	

第 十 六 回	第 十 五 回	第 十 四 回	回 數
七 月 中	七 月 中	七 月 中	實 施 定 規
			題 目
			擔 當 者
			內 容 概 略
外交戰史 歐洲大戰後ニ於ケル平 和戰	外交戰史 歐洲大戰ニ於ケル講和 外交戰	外交戰史 日清・日露兩戰役ニ於 ケル講和外交戰	
西 村 所 員	西 村 所 員	榮 原 所 員	

外交戰教科目實施豫定月割表

實施月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	
回数	二	三	七	五	一	一	一九
外交戰本誌	二	二	三	一	一	一	一〇
西村所員	一		一	一			三
桑原所員	一	二	二		一	一	七
外交戰史		一	四	四			九
西村所員			三	二			五
桑原所員		一	一	二			四

計畫者 桑原所員

秘

氏名

回数	題目	擔當者	内容ノ概略	備考
第一回	共榮圈建設上ヨリ觀タル民族問題ノ意義性質	細井所員	一、意義内容目標 二、日本ト民族問題	
第二回	月六 民族問題	岡正雄博士	一、民族問題ノ重要性	
第三回			二、民族政策樹立ニ必要ナ根本原則	
第四回	華僑問題	井出秀和博士	一、華僑ノ現況 二、華僑對策	

「共榮圈ト民族問題」

講義豫定

細井所員

第九回	第八回	第七回	第六回	第五回
八月	八月	・	七月	・
我國ノ採ルヘキ民族政策ノ方針ト其ノ遂行ノ方法	・	朝鮮民族問題	・	共榮圈建設ニ際シ起フルヘキ民族問題
細井所員	・	朝鮮總督府事務官	・	細井所員
	三、朝鮮統治ニ就テ	一、朝鮮ニ於ケル從來ノ民族問題 二、共榮圈建設ニ關聯シ起コレル問題及將來起ヨル虞アル問題	三、經濟問題 四、其他 國內異民族問題 日本民種自身ノ問題等	一、文化問題 二、政治問題

秘

經濟戰關係教科目豫定案

要重		戰經	運原質戰ルニ總 用則基ノ經於力 及本本濟ケ戰				區分
		史濟	戰	戰	戰	戰	科
		史	時	濟	戰	戰	目
		史	小計	戰	基本原則	本質	回數
		史	一	二	三	四	二
石	石	經	戰	戰	經濟戰	經濟戰	擔當者
	輕	濟			基本原則	本質	
	非	戰					月
	鐵	史					
	鐵						割
	金						
	金						四月
	鋼						五月
	充						六月
	員						七月
							八月
							九月

10

研究生知識交換會實施要綱

一、趣旨

研究生相互ニ其ノ體驗セル職域ニ關シ説明又ハ意見ノ發表ヲ爲シ知識ノ向上識見ノ練磨ニ資ス

二、要領

〔一〕講演ノ内容ハ各自ノ體驗セル職域ニ關スル説明又ハ其ノ體驗ニ基ク意見ノ發表ヲスルコト

〔二〕本會ハ五月ノ第三週ヨリ之ヲ開始シ每週三回、毎回放課後約一時間之ヲ實施スルコト

〔三〕講演者ハ毎回原則トシテ二人トシ、一人ノ講演時間ハ三十分以内トシ講演後質問ヲ許スコト

〔四〕講演ノ順序ハ本人又ハ一般研究生ノ希望ニ依リ希望無キトキハ名簿順ニ依ルコト

(四) 講演ノ日時、講演者及題名ハ一週間毎ニ世話人之ヲ取纏ノ前週土曜
日迄ニ之ヲ各室ニ通知スルコト
(内) 本會ハ教務ト連絡ノ上、研究生自治的ニ之ヲ實施スルモ、所長以下職員
ノ臨席ヲ歡迎スルコト
(出) 場所ハ平常ノ教室トスルコト

世話人

五月四日

大日本帝國政府

第二室 講義希望屆

教育問題ニ関スル講義ヲ加ヘテ之

十井 研一

- 一、國民教育ノ根本方針 並ニ現在ノ方向
- 二、高、專、大學教育ノ現状
- 三、教育行政ニ関スル問題
- 四、教育ニ於ケル諸問題

(國定規格B5(八三×三五七耗))

校外者馬術練習自規定

陸軍大學校

校外者馬術練習規定本冊ノ通改定ス

昭和十七年二月一日

陸軍大學校長 下村定

校外者馬術練習規定

第一

本規定ハ大正十五年四月五日陸普第一三二六號¹ 都外
團隊ノ兵營及廠舎宿泊並ニ軍馬及軍用物件貸與規定
ノ件陸軍一般ニ通牒^レニ基キ校外者ノ馬術練習ニ關シ所
要ノ事項ヲ規定スルモノトス

陸海軍將校並ニ其ノ候補者ノ馬術練習ニ關シテハ本規
定第二以下ヲ準用スルモ其ノ許否ニ關シテハ學校ノ
實情ニ應シ其ノ都度之ヲ定ムルモノトス

第二

練習ニ關スル業務ハ馬術部之ヲ擔任スルモノトス

第三

練習ヲ許可スハキ者左ノ如シ

1. 帝國大學馬術部ヨリ願出ツル同校學生及其ノ指導
者タル先輩

2. 軍事上若クハ國策上關係官廳ヨリ特ニ依頼セラレタ

ル者

第四

右ノ外當校職員自ラ責任ヲ以テ監督練習セシムル者
ニ對シ特ニ許可スルコトアリ

練習許可ヲ受ケントスル場合ニハ別紙様式ノ願書ヲ
學校長ニ提出スルモノトス 但シ前條末項ノ場合ニ
於テハ口頭ヲ以テ願出ツルコトヲ得

第五

練習ハ當校ノ業務(教育内務、經理、衛生)ニ支障ナ
キ日時ニ通常校内馬場ニ於テ行ヒ毎回概ネ一時間
トシ開始時限ハ季節ニ從ツテ之ヲ定ム

又校長ノ認可ヲ受ケ遠乗或ハ競技ヲ實施スルコトヲ
得

第六

軍馬及馬具等校外ニ持出ヲ 許可セラレタル場合ハ
凡テ當日中ニ返納スルモノトス 但シ要スレハ數日ニ
亘リ貸切ヲ爲スコトヲ得(貸規九)

○ 第七

⊙ 第八

⊙ 第九

✓ 第十

馬術練習ノ指導ハ馬術教官又ハ馬術部下士官(新任官
又ハ雇員ヲ含ム)ヲシテ之ニ當ラシムルモノトス(貸規七)
不慮ノ外傷等發生シタル場合應急手當ハ爲シ得レハ當
校ニ於テ行フト雖モ爾後ノ處置ニ關シテハ當該練習團
體ニ於テ擔任スルモノトス
貸與シタル軍馬及器具等損傷又ハ七失シタルトキハ
治療修理ニ要スル實費ヲ徴シ又ハ評價格ヲ以テ之ヲ
賠償セシムルヲ例トス(貸規一〇、單經規八四)
整備員手當及増飼量トシテ毎月左ノ標準ヲ以テ一定ノ
金額ヲ徴收スルモノトス(貸規二、單經規八三、八四)
但シ特ニ増給ヲ要スル場合ニ於テハ更ニ所要ノ費用
ヲ徴收スルコトアリ
(整備員手當)一ヶ月整備員一人ニ付概テ壹圓ヲ支給シ
得ル額

✓ 第十一

第十二

(増飼量)毎日貸與馬一頭ニ付大麥一石ヲ支給スル
ニ要スル實費(單指定相場)
練習希望團體ハ練習者ノ人員ヲ逐クモ前日正午迄
ニ到着スル如ク馬術部ニ通報スルモノトス
練習ヲ許可セラレタル團體ハ委員ヲ常置シ馬術部
長ノ指示ヲ受クルモノトス

別紙

馬術練習許可願

昭和 年 月 日

團體名

所在地

代表者氏

名 印

陸軍大學校長

官氏名

事由

目的ヲ以テ會員

名會員名簿

ヲ添付ス馬術練習致度ニ付練習許可相成度願上候

研究生希望映画

一 軍事關係

最後ノ一兵迄 (作戰計畫ニ付事前ニ説明ヲ要ス)

我等ノ兵器

火砲

土ト兵隊

西住戰車長傳

銃ト劍

空ノ少年兵

燃ユル大空

上海陸戰隊

勝利ノ基礎 (兵學校生活)

將軍ト參謀ト兵

勝利ノ歴史

(修正)

一、ロスマイルト

二、大同石佛

三、支那有映画

總力戰研究所

産業関係

産業日本（国際文化振興會）

M 0 20（航空機）

列車

機關車 0 57

關印探訪記

其他

川中島

元祿忠臣藏

間諜未ダ死セズ

馬

吾ガ愛ノ記

總力戰研究所

農林省
伊藤研生
提申

園松

- ① 山崎カレット
- ② 戦国工業技術研究所 (技術的水草)
- ③ 浦上清水とち油

農林省

洋野紙

油脂

日本油脂王子工場 (硬化油、石炭)

調味料

鈴木食料工業川崎工場

(味の素)

アルコール

昭和酒造川崎工場

(酒造原料)

硫酸

昭和電工川崎工場

ビール

大日本ビールエビス工場

紙

王子製紙株式会社工場
水産試験場 水産講習所

先日 浦上清水

大原石の採り所は 浦上清水に

かまふかと思ひます。

欠票の「手」は

油脂は

大谷事友

調味料

アルコール

硫酸は 次部

事友

ビールは 工業食品課長 であつたは

通信 東京電氣 日本電氣

化學 昭和肥料 旭硝子 キリンビール

計器製作工場

研究所

船舶試驗所 航空研究所 燃料研究所

理化學研究所 蠶糸試驗場 生糸検査所

具他

放送局 高師附屬國民學校及中學校

上水道 下水道 造幣局

同盟通信社 港灣施設 内原訓練所

國技館大相撲 撮映所

研究生ノ東京附近見學希望先

陸海軍施設

陸軍糧秣廠 陸軍被服廠 陸軍燃料廠

習志野學校 戶山學校

海軍燃料廠

工場

鐵鋼 特殊製鋼 日本特殊鋼 日本鋼管

日本高周波

光學 日本光學

機械 日立製作 芝浦電氣 精工舎

造船 石川島 浦賀船渠 三菱橫濱船渠

航空機 中島飛行機

自動車 ディーゼル自動車 三菱玉川工場

車輛 鐵道大宮工場

清水

秘

要 通		第二期研究生 研究履歷書				
總 力 戰 研 究 所	處 理	調製部數	調製年月日	一連番號	文書番號	
	用濟後燒却	三十部	昭和十七年六月十三日	19	總研丙第二號	

姓名	職	職	職	職
陸軍少佐 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省
陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省
陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省
陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省	陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省

(7)

職名	職	歴	研究上特ニ興味ヲ持テ居ル事項
横濱正金 銀行役員 船瀬太郎	昭和六年以下汽船入社 聖理部次長(勤務) 三ノ宮(支店)(三ノ宮) 營業部勤務(現社)	東京上海各支店實務 各三ノ宮 東京頭取調査部勤務	從來特ニ研究シテ居ル事項 支那金融事情 米國經濟事情
山下汽船 株式會社員 漆野壽一	昭和六年以下汽船入社 聖理部次長(勤務) 三ノ宮(支店)(三ノ宮) 營業部勤務(現社)	昭和六年以下汽船入社 聖理部次長(勤務) 三ノ宮(支店)(三ノ宮) 營業部勤務(現社)	研究上特ニ興味ヲ持テ居ル事項 英國、打米、煤、銅、鐵、石油 ハ、チ、チ、チ、米國、國際債 借上、地産
地方事務官 江口俊男	地方事務官(社会由之) 地方警備(警防部長) 内務省(地方行政)	地方行政	行政組織 地方行政
河津事務所 大塚茂	航空機關總長兼、指導 關西局局長、兼、運用 有馬、河津、法政、教育、審判 滿洲國縣令(四年) 廣東防務政治政府顧問(二年) 華北口河軍用顧問及補佐官	世界經濟、將來 政治及行政、組織	民族、思想問題
鐵道省 事務官 兼松學	鐵道(運輸業務) 陸運(主、自動車行政) 監督業務	運輸、特性ニ基クテ 研究、研究、自動車行政 研究、研究	中國、研究、研究、研究 研究、研究、研究、研究、研究 研究、研究、研究、研究、研究

官職	氏名	職歴	従来特ニ研究ニタル事項	研究ニ特ニ興味ヲ持テル事項
陸軍少佐	川上清康	下関憲兵隊隊員、陸軍砲七聯隊、上海戦場砲兵少校、自外少佐(帝大派遣)、校本三三火砲隊隊長兼業務	大砲隊員各種事項	列國技術別表(夜間考察)研究(特別)兵部特許問題、商標関係、生産関係
文部事務官	久保田藤磨	大分高等学枚関係事務(支那)、日清教育行政委員会(支那) (天正茂)		文部、文(戦年上文化関係)
陸軍主計少佐	熊石卓次	東京三隊付勤務(三年半)、共済造軍經理部主計課、陸軍省主計課(豫算)課長、陸軍監理学校主計(一年)		財政全般、忠(陸軍関係)軍需産業一報
帝國農会参事	小池謙一	帝國農会調査指導科係、農政調査係、經濟部地方課長、農政印刷係、政務部政務課長	食糧問題(中心上)、農業及農林問題	食糧問題(中心)、農業関係問題、農業行政
東京高等師範教授	小林信明	東京文理大助手(漢學)、東京高等師範助教(漢學)、大陸科学館主任(漢学)、外國留学生係主任	語学、組織、老死、思想、支那上代五行思想(支那思想)、青文三関之研究	異民族教育問題、民族問題、口体両面問題、國民教育、根本教育問題、一般思想問題

官職氏名	職	歷	研究上特異味持了事項
陸軍少佐 柳 梨 心 次	步兵七十八師隊付 步兵學校及軍事科隊付 上海軍務課 陸軍省軍務局課員	陸軍省軍務局課員	總力戰一般 高度國防圖畫建設上北方 及南方圖、占領地位 (軍事所問題之限定(七八))
高軍務官 貿易局 佐 久 間 亨	燃料局人造石洲課(四下月) 曾致之世務局書記官(一五) 陸軍省軍務局課員(一六) (鐵鋼)出立(一七) 鐵鋼局特務課課員(二五)年	燃料局人造石洲課(四下月) 曾致之世務局書記官(一五) 陸軍省軍務局課員(一六) (鐵鋼)出立(一七) 鐵鋼局特務課課員(二五)年	燃料關係(七下)深 大東亞深圖三於(八)出 文化工作
勸務官 須 江 英 雄	台灣總督府 郡一守	台灣總督府 郡一守	燃料問題 顯
勸務官 鈴木 栄 次	日本石油 株式會社 臨時資金部 課長	日本石油 株式會社 臨時資金部 課長	經濟學

官職	氏名	職歴	従軍特許研究ニ於テ事項	研究特許研究ニ於テ事項
外務事務官 兼 鐵道事務官	曾野 卬	外務官補 （少輔） （少輔） 外務官補 （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔）	「少輔」 （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔）	本邦に於テ、 戰力、 戦術、 戦術、 戦術、 戦術、 戦術、 戦術、
三菱重工業株式會社 社員	高岡 文夫	横濱、 （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔）	（少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔）	船、 船、 船、 船、 船、 船、 船、 船、
内務事務官	玉越 勝治	内務省、 （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔）	（少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔）	上、 上、 上、 上、 上、 上、 上、 上、
軍令部出仕 海軍省出仕 海軍少佐	土井 泰三	海軍省、 （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔）	（少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔）	作、 作、 作、 作、 作、 作、 作、 作、
森事務官	中西 泰男	四谷、 （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔）	（少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔） （少輔）	泰、 泰、 泰、 泰、 泰、 泰、 泰、 泰、

官職	氏名	職	歴	研究上の事項	研究上の特色上の事項
滿洲國 總務廳 參事官	夏目忠雄	依蘭、通河縣參事官 並文武造軍務官 榮亭縣顧問 總務部地方教課長(奉天省)	支那問題	支那問題	支那問題
朝鮮總督府 軍務官	橋本正之	農林省農政課(農政顧問) 並濟南道農務課長 總務局總務課(以下省略)	資源並土地利用關係	資源並土地利用關係	資源並土地利用關係 精神力
農林事務官	藤卷吉忠	國有林管理官 民間林業顧問 木茂木炭統制	林業 林産統制	農村計画	農村計画
滿洲國 總務廳 參事官	双川喜文	八戸地方法院審判官 司法部事務官 總務部參事官(人事處)	文官制度	文官制度	行政及統治組織思想 民族政策(改革)問題
衛生事務官	星野毅子郎	任山務官 任地方事務官 群馬縣農務部衛生課長 任地方衛生課 神奈川半澤衛生課長 衛生事務官(生保局)			大東亞共榮圈確立 小東亞行政機構改革 官吏制度、刷新
台灣總督府 事務官	熊山晴二	台灣總督府交通局長 台北州總務課長 台灣總督府軍人官 警備局勤務			南方共榮圈確立方法 南洋開發問題(改革)及不 統制(南洋)口以思想

官職代名	職	歴	研究特三研究之事項	研究上特三研究之事項
大正事務官	村上 一	預金部 國民所書記局長 企業院秘書官 大臣官房企業課長	西洋史 東洋史	民族問題
第四高等學校教授	森 河 博	第四高等學校西洋史教授 今津洋行書記 注進課兼學生指導主任		軍事學 教育制度
物産局事務官	山 本 八 郎	農林省(文書課長) 秋田県(農林部長)經歷 特許局(商務局物産局長) 軍需官(物産局)部企業課長		大東亞共同圏建設
外務事務官	山 津 善 衛	外務書記官(外交官補) 外務事務官 櫻井(一課)南洋局二課)		外交一般
海軍校閱	山 本 勝 郎	艦隊勤務(十一年) (海軍艦隊北支隊隊務課) 海軍大學校學生(十一年) 海軍工廠學校教官(半年)		經濟
日本製鐵株式會社(二員)	水 野 勲	八幡製鐵所(於) 事務管理	社会政策、社会思想 勞務管理	國民組織、勞務組織 社会思想

官職	氏名	職	歴
日本電信電話株式会社 役員	渡邊 一郎	日本電力株式会社(会計課) 日本電信電話株式会社 企画部長、主任理事 年計部長、部長理事	経済研究員 専任
			研究員 兼任 専任
		経済(産業)	
		経済	

陸軍省
所員

總力戰機密號外

昭和十七年七月八日

機密書類取扱主任官

機密書類取扱規程第二十三條ニ據リ左記ノ如ク検査ヲ行フ

左記

検査書類ハ機密書類及極秘書類中一連番號ヲ附シタルモノ並ニ帳簿
トス

併セテ機秘密書類取扱規程ノ實行狀態ヲ検査ス

國外旅行人員割當表

一七八二一

支	所員	研究生
南方	中山 樋口 二名	十三名
北支	安中 久我 二名	八名
中支	佐々木 大庭 二名	九名
滿鮮	堀 一名	七名

支	所員	研究生
南方	1 玉越(内) 2 土井(海) 3 中西(大) 4 大塚(遞) 5 兼松(鐵) 二名	十三名
北支	藤卷(農) 庵地(住友) 村上(大) 川上(陸) 會野(外) 二名	八名
中支	双川(滿洲) 佐久間(商) 山本(海) 小池(帝農) 久保田(文) 二名	九名
滿鮮	伊藤(農) 山津(外) 熊谷(陸) 渡邊(發送電) 一名	七名

計 十五名

13	夏目 (滿洲)
12	井上 (農村更生)
11	水野 (日鐵)
10	淺野 (司)
9	箕山 (拓)
8	鈴木 (日石)
7	星野 (厚)
6	山地 (商)

計 十一名

須江 (拓)
橋本 (朝鮮)
芥川 (同盟)
小山 (内)

計 十一名

江口 (内)
榊原 (陸)
高岡 (三菱重工業)
小林 (高)

計 八名

尾田 (北支)
漆野 (山下)
森河 (四高)

昭和十七年九月八日

總力戰研究所長 遠藤喜一

研究室附屬金庫ニ關スル件

今般研究室附屬金庫ノ開閉ニ關シ左ノ如ク定ム

一 第一、第二、第三室所屬研究生中ヨリ一名、第四、第五、第六室所屬研究生中ヨリ一名ヲ週番トシ、各三室ニ附屬スル金庫二個ノ開閉ニ任ズルモノトス。

一 週番研究生ハ金庫ノ鍵ヲ保管シ當該期間全責任ヲ以テ金庫ノ開閉ニ任ズ。

一 週番研究生ハ週番最終日朝金庫ヲ開キタル後鍵ヲ後任者ニ引繼グモノトス。

一 週番研究生事故アル際ハ次週番研究生ヲシテ之ヲ代行セシム

一 研究生ノ週番期間別紙ノ如シ。

別紙

昭和十八年	昭和十七年		昭和十八年	週	番	期	間	一、二號金庫	三、四號金庫
	九月	十一月							
一月四日	九月九日	十一月二日	十二月七日	一	一	一	一	伊藤 研究生	芥川 研究生
二二日	一四日	二二日	一四日	二	二	二	二	川上 研究生	熊谷 研究生
二八日	二二日	二八日	二二日	三	三	三	三	双川 研究生	玉越 研究生
二八日	二二日	二八日	二二日	四	四	四	四	水野 研究生	森河 研究生
二八日	二二日	二八日	二二日	五	五	五	五	山野 研究生	箕山 研究生
二八日	二二日	二八日	二二日	六	六	六	六	山津 研究生	渡邊 研究生
二八日	二二日	二八日	二二日	七	七	七	七	磐瀨 研究生	山本 研究生
二八日	二二日	二八日	二二日	八	八	八	八	大塚 研究生	庵地 研究生
二八日	二二日	二八日	二二日	九	九	九	九	小池 研究生	須江 研究生
二八日	二二日	二八日	二二日	十	十	十	十	小林 研究生	高岡 研究生
二八日	二二日	二八日	二二日	十一	十一	十一	十一	鈴木 研究生	江口 研究生
二八日	二二日	二八日	二二日	十二	十二	十二	十二	藤卷 研究生	村上 研究生
二八日	二二日	二八日	二二日	十三	十三	十三	十三	土井 研究生	

(備考) 佐久間研究生八目下病氣休養中ナルヲ以テ週番ヲ免ゼリ。

二二日	一五日	八日	二月一日	二五日	一八日	二一日
1	1	1	1	1	1	1
三月一日	二二日	一五日	八日	二月一日	二五日	一八日
中西	曾野	夏目	久保田	漆野	淺野	橋本
研究生	研究生	研究生	研究生	研究生	研究生	研究生
兼松	星野	山地	小山	神原	井上	尾田
研究生	研究生	研究生	研究生	研究生	研究生	研究生

27

（昭和八年七月） 表席座 第二期研究生

--	--

	久保田 (部文)
--	-------------

鈴木	玉越
(石目)	(務内)

森河	兼松
(高四)	(道鉄)

小林	川上
(師高京東)	(軍陸)

神源	高岡
(軍陸)	(工電菱三)

佐久間	漆野
(工商)	(船汽下山)

小池	伊藤
(會農國帝)	(林農)

小山	須江
(務内)	(務拓)

熊谷	浅野
----	----

大塚	船石瀬
----	-----

尾田	江口
----	----

(軍迷) (法司)

(信遠) (銀正)

(託痛) (務外)

林川 夏目
(盟同) (國洲滿)

土井 山津
(軍海) (務外)

井上 庵地
村農 (會恫生更) (學化友佐)

渡辺 中西
(電送弁) (藏大)

藤巻 水野
(林農) (鉄日)

山地 山本
(工商) (軍海)

箕山 曾野
湾台 (府督總) (務外)
(室四第) (室三第)

橋本 双川
鮮朝 (府督總) (國洲滿)
(室二第) (室一第)

星野 村上
(生厚) (藏大)
(室六第) (室五第)

壇 濱

研究生ノ訓育方法ニ關スル意見書(一七一五)

樋口所員

總力戰研究~~所~~三期~~生~~ヲ迎フルノ日モ遠シトシマ~~ン~~ノテ豫テ抱懷スル小官ノ之ガ訓育ニ對スル意見ヲ左ニ開陳致シマスカラ御檢討ノ上採否御決定願ヒマス

一、研究生ノ採用ニ當ツテハ、必シモ頭數ヲ揃ヘルコトニ捉ハレズ、タトヘ二十名ニ過ギズトモ充分嚴撰スルコト

處罰件

二、研究生中ニ、二三ノ不眞面目ナル者存~~在~~スル爲メニ全体ノ士氣ヲ案ス恐レ有ル場合等、所ヨリ除名スル事有ル可キヲ豫メ各省各社ト打合セシオキ適宜ノ處置ニ出~~ル~~ルコト

決定

三、新學年第一歩、講義ニ入ル前ニ、~~所長~~閣下ヲ中心トシテ、所員、研究生全部約一週間修養道場ニ合宿シテ國體ノ本義ニ眼覺メタル熱烈ナル救國ノ志士タラントスル氣慨ヲ先ヅ以テ呼ビ覺サセルコト

乃至十日

場所トシテ、~~所長~~ハ

有

校

- 四、今年度中ニ、「總力戰研究所ノ歌」ヲ作曲作詞スルコト、曲モ歌詞モ士氣ヲ鼓舞スルニ足ルモノニシテ平易雄壯、且行軍ノ步調ニ合セ得ルモノトスル事、之ハ今年度卒業式迄ニ完成シ第二期生ニモ間ニ合セル事
- 五、所訓ヲ制定シ所ノ風格ヲ建設スル一助スルコト
- 六、制服ヲ制定スルコト、國民服ニ一定スレバ簡單ナル可キモ、夏ノ上衣ハ半袖トスルヲ可トス可シ

以上

一、研究生服裝規律件

一、平生ノ訓育 (防空訓練等)

校三三早 東洋作製

山王研究會

馬術

任意

映画

昭和十七年 總力戰研究會 研究生日課表

日	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一	二	三	四	五	六	日
時	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	時
7:05																	
7:35																	
10:00																	
11:30																	
12:30																	
2:40																	
3:50																	
4:00																	

外日 清早(7:00-7:30)

映画 X X O O

鍛 鍊 旅行

基礎研究 體育

基礎研究 體育

鍛 鍊 旅行

7:05 7:35 10:00 11:30 12:30 2:40 3:50 4:00

大日本帝國政府

才六室

鍛鍊旅行感想

第六室

(國定規格B5一六三×二五七)

一、此種鍛鍊旅行ハ極ク有益ナリト認ム。

二、旅行中ノ研究、訓練ハ必要ナシ。理由ハ、克ク遊ビ、克ク學ブ。

一、御旨ヲ徹底シ、途ヲ追フノ愚ヲ避クルニ由ルモ、事實上、環境研究ニ道セバ、機密(沈黙)ノ不便モ亦多シ。

三、出来得バ、登山、水泳等、格ニテ鍛鍊ニ得ル商地ヲ選ビ、一週

間位、期內ニテ一回ダケ實施セリ。方直ニシテ、或ハ場所ノ選定ニテ難シカラシモ、研究ニ適カレタシ。

四、尚此敵産管理ニ、方面ニテ活用ニ得ルモノナキヤ、宿泊施設ハ、

松井保、曾凡洲、等、知ラ

第四号感想

昭和十七年八月十日

鍛錬旅行所見

才田室

代表 箕山 研究生

(國定規格B5(183×257))

大日本帝國政府

一、長期間の研究生活の中間に此の種 鍛錬旅行の便施は心氣一転の上よりも 極めて有意義なるが、二回に分割せざる方がより効果的なるやと思料せらる。陸水泳の時期については明年^は考慮せらるべし。

二、旅行先に於ける 作育は土地。形況に即したるものを便施せしむる方宜しからずやと思料せらる。

旅行中 ¹⁾ 外國情報²⁾ 研究を便施するにこゝろ、身体、鍛錬に徹底する方宜しからずや。

三、明年よりは基礎研究開始前に此の種 鍛錬旅行を便施せらる方が適當なるやと思料せらる。

大日本帝國政府

原君

研究生、圖書館子控

ヒンナンブルクノ悲劇

(主事より借用)

夏目研亮

政河ノ首都細林

陸中兼山

中一室

支那革命ノ史

小村新太郎

陸見山所算

アニリン

石	鐵道省	遞信省	商工省	農林省	文部省	司法省	海軍省	陸軍省	大藏省	內務省	外務省	內閣	
	-	-	=	=	≡	-	=	⊖	=	四	=	0	第一期生
	-	-	=	=	≡	-	=	≡	=	≡	=	0	第二期生
	-	-	=	=	=	-	≡	⊖	=	≡	=	-	第三期生檢定

- 0 ⊖ 0 0 0

(系)

支那 學堂 办

年齡平均	計	民間團體	國策會計	同盟	軍機託	滿洲	臺灣總督府	朝鮮總督府	衆議院	貴族院	大東亞省	厚生省
三三・三歲	三三名	農業團體	45	-	-	-	0	-	-	0	0	-
三一・九歲	三九名		10	-	-	-	-	-	0	0	0	-
38	38名 (撤備三名)		5 (船工、製鐵、燃料、金融)	-	-	-	-	-	0	0	-	0

外閣

ト

0

0

備考	三	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	一九	一八	一七	一六	
				日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火
<p>综合研究日数 又女子训练之日 四〇日(至三十九日) 日曜日一日(至)</p>				大和禮堂方面練習見女子旅行								综合研究				

4098 76543

二月

又キ一訓練

(不動)

一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	月	
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月

紀元節

天詔奉戴日
綜合研究

冬期鍛鍊旅行

昭和十八年總力戰研究所研究生日課表

2 ~~2~~ 9 8 27
 130

所長達第

昭和

總力戰研究所高等官着離任ニ際シ行フ諸禮式

總力戰研究所高等官着離任ニ際シ行フ諸禮式

表ヲ組ム場合ニ於テハ
 氣象狀況ヲ考慮ニ入ルルヲ要ス
 (書類ヲ氣象方ヨリ
 取リヨセルコト)

第一 當研究所高等官着離任ノ際ハ迎送式ヲ行フ

第二 所長ニ對スル迎送式ハ總員(研究生ヲ含ム)整列シ之ヲ行フ整列場
場所及其ノ隊形別圖第一ノ如シ

第三 所長以外ノ高等官ニ對スル迎送式ハ着離任者ノ上席者ヲ除ク總員
(研究生ヲ除ク)前號ニ準ジ之ヲ行フ

第四 所長又ハ勅任高等官着任シタルトキハ着任者ノ上席者ヲ除ク高等

官及判任官其ノ室ニ伺候ス

第五

高等官着任シタル後成ルベク速カニ總員ニ紹介ス
紹介式ハ講堂ニ於テ主事之ヲ行フヲ例トス
整列隊形別圖第二ノ如シ

第六

研究生ノ入退所ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第七

式次第ハ別紙第一ニ依ル

式次第

一 迎送式

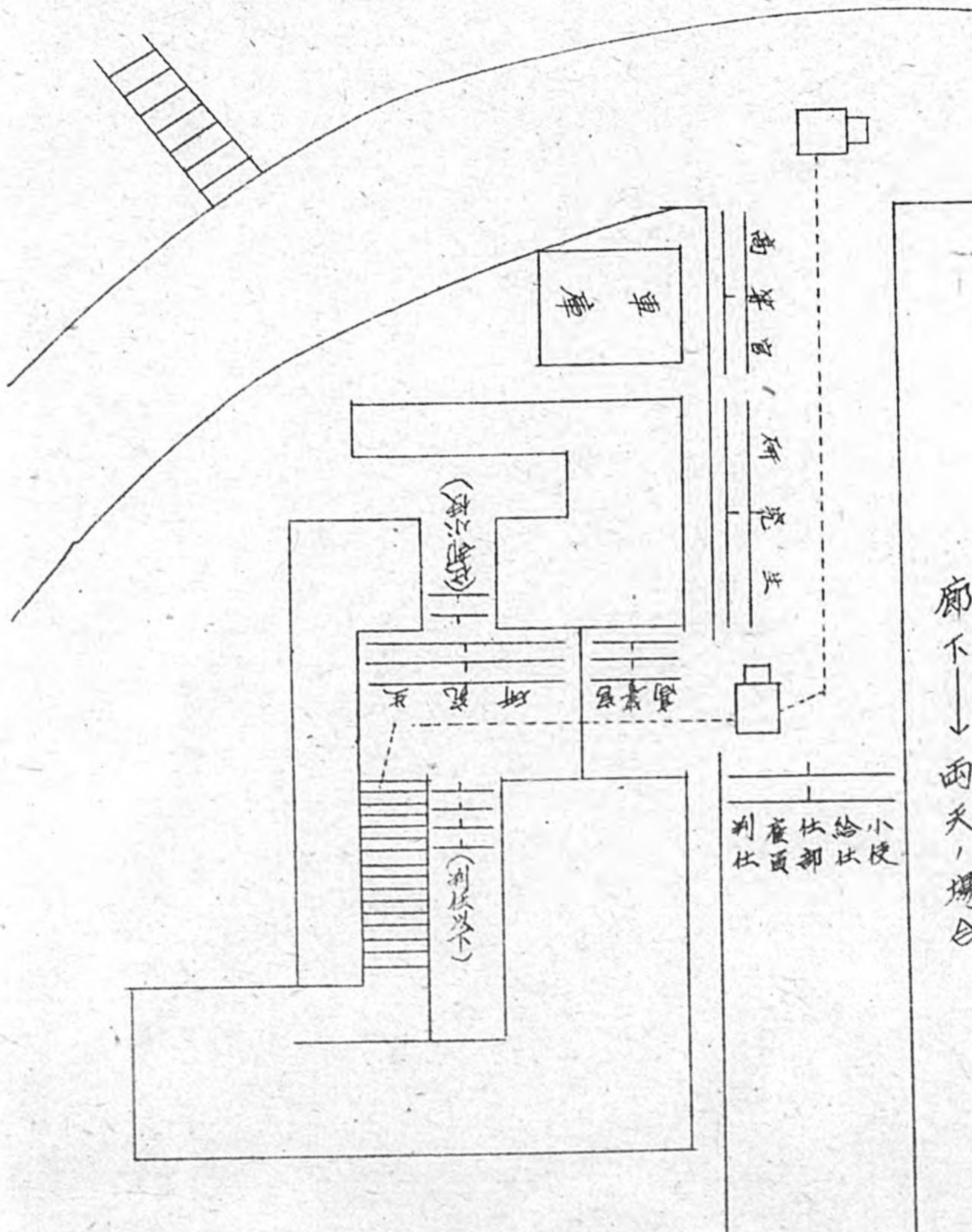
- （一） 全員整列
- （二） 氣ヲ付ケ（受禮者式場到着ノ直前）
- （三） 受禮者ニ對シ敬禮（高等官、研究生、判任以下ノ各別ニ敬禮シ目送ス）
- （四） 受禮者式場外ニ去リテ解散

二 紹介式

- （一） 全員整列
- （二） 氣ヲ付ケ（受禮者到着ノ直前）
- （三） 受禮者ニ對シ敬禮（紹介者被紹介者昇壇シタルトキ）
- （四） 紹介ノ辭（主事但シ主事ヲ紹介スルトキハ所長）
- （五） 被紹介者ノ訓示又ハ挨拶
- （六） 解散

別圖第一

迎送式場及隊形



道路 ↓ 晴天、場合
 廊下 ↓ 雨天、場合

小使 給仕
 庭園

車庫

研究室

研究室

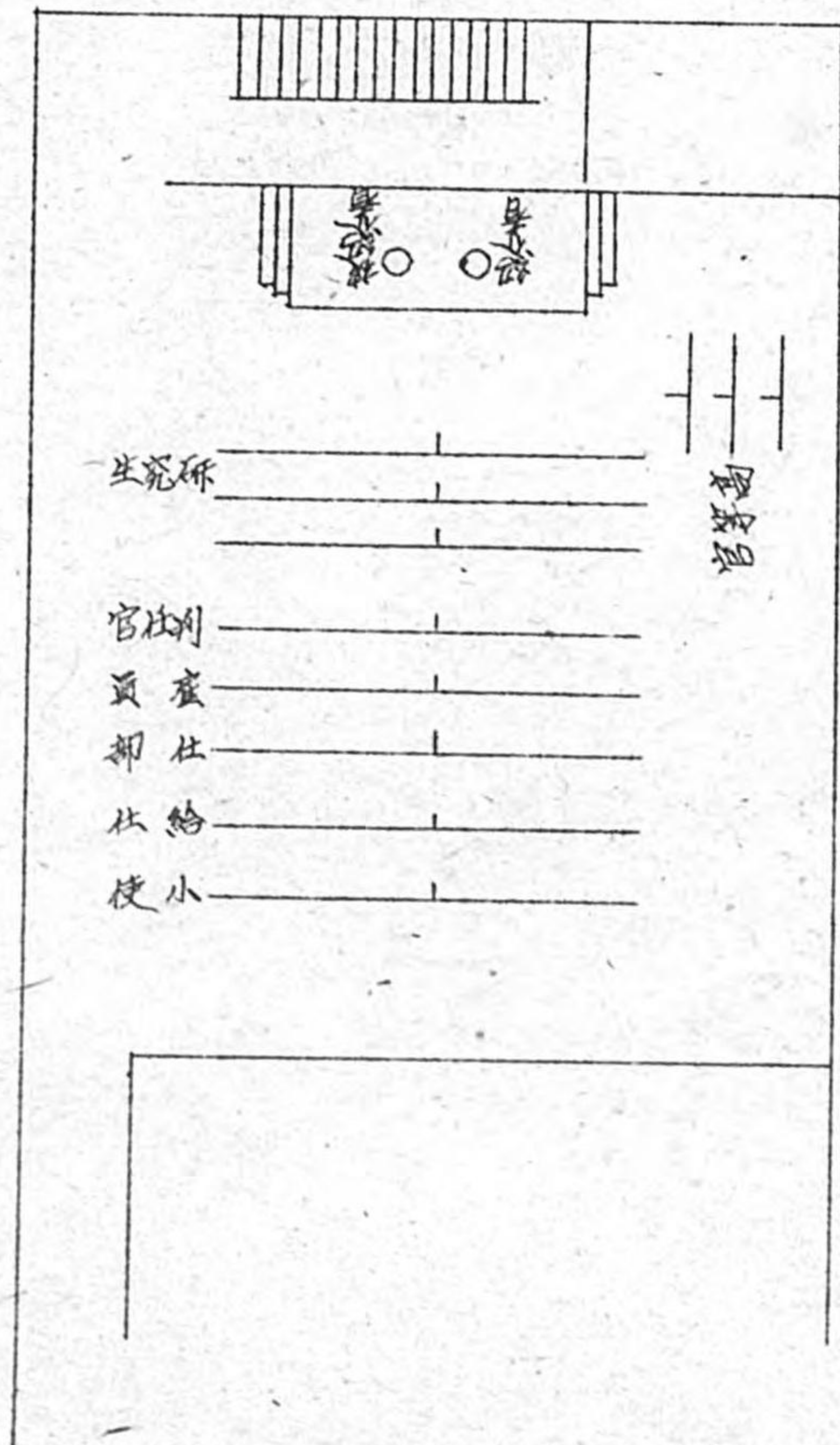
廊下

研究室

小使 給仕

別圖第二

紹介式場及隊形



秘

研究生研究演練實施要領

總力戰研究會

第一 方針

總力戰的見地ヨリ東亞共榮圈ノ建設構想及其第一期指導要領ヲ總合的ニ
研究會得セシメ且之カ具現ノタメ各自戰域ニ於ケル具體的實踐ノ準繩ヲ
信念的ニ把握セシム

第二 要領

一、研究演練ハ左ノ如ク前後段ニ分ツ

前段 十月下旬ヨリ一月ニ至ル

後段 主トシテ二月

二、前段ノ研究演練ハ東亞共榮圈建設及其第一期指導要領ニ關スル總力戰
的基礎研究ヲ遂ケシムルモノトシ綜合研究ヲ主トシ可及的範圍ニ於テ
一部分科研究ヲモ附帶シテ行フ

研究課題並綜合及分科各問題ヲ別紙ノ如ク概定ス
之カ爲研究生ハ適性ニ應シ其全活動ヲ促ス如ク其都度之ヲ分課編成ス

ルモノトシ（研究問題ノ性質並研究生ノ個性能力等ニ應シ適宜綜合及分科ノ問題ヲ課ス）日課表ニ於テ準備研究ノ時間ヲ與フ

三、綜合研究ノ實施ハ毎月概三回トシ問題毎ニ其擔當者ヲ主體トシ爾餘ヲ

參加セシメ主事統裁ノ下ニ全所員其分擔ニ應シ之ヲ指導ス

分科研究ノ實施ニ關シテモ亦右ニ準シ綜合研究ノ緊閑ト調和シテ之ヲ指導ス

四、研究終了後其研究要旨ヲ整理提出セシム

五、後段ノ研究演練ハ東亞共榮圈建設原案就中其第一期指導要領ニ關スル

事項ヲ取扱フモノトシ二月連續之ヲ指導ス

詳細ハ追テ定ム

(附表)

研究指導要領

- 一、前回指導要領打合後、次回ノ問題、所員研究生、各分擔決定
 - 二、前回研究指導後、右決定指示
 - 三、研究豫定前々日午前、答解提出
 - 四、研究豫定日前日、指導打合セ、所要ニ應シ印刷
- 其研究日

第一段 中心問題ノ檢討

第二段 綜合課題答案ノ討究

第三段 分科課題答案ノ討究

第四段 國家企圖ニ對スル各分野ノ具體的綜合施策

第五段 企圖遂行ノタメノ現狀ニ對スル改善具體案

(別紙)

前段研究演練ノタメノ豫定項目

一六一〇二二

◎

一、東亞將來ノ長期判斷 (一一、六)

綜一、東亞ノ自給力

二、東亞ト歐米トノ相互關係

三、太平洋ノ超越性

分一、航空發達ノ將來性

二、重工業資源自給力ニ關スル埋藏量ヨリ視タル將來性

(日誌) 以下

三、國防上ニ於ケル物資、勞務及交通 (一一、一九)

綜一、列國資源需要形態ノ比較觀察

分一、人ト物トノ相互關係

二、人及物ト交通トノ相互關係

三、世界交通ノ發達經緯

三、東亞自給圈 (一一、二九)

綜一、反對給付ノ見地ヨリスル自給限度

協定、協行
生及自給之、現状、自給

七、八、九、

ニ支那事變ノ繼續並解決ノ兩場合ニ於ケル吟味

○例一、食糧ノ見地ヨリスル自給力

ニ歐米ノ東亞採取ノ實相

○三、東亞國家民族ノ特性

四、東亞國家民族ノ經濟的實相

○五、支那ノ歐米依存ノ實狀ト其將來

四、戰爭ニ伴フ國力整備 (一、二、三、四)

一、口力整備國力建設及缺陷補備

ニ現狀トノ比較研究

例一、製品ト原料トノ相互關係就中軍需ト其基礎產業トノ相互關係

ニ人及物ニ關スル單位完成期間

三、民需最低限度

✓

五、戰爭ニ伴フ財政指導 (一三二七)

綜一、現状トノ比較研究

二、現在ニ於ケル財政限度

份一、金ト物トノ關係

二、戰後經營ニ於ケル財政

三、圓「ブロツク」並東亞ニ於ケル通貨問題ノ將來性

六、戰爭ニ伴フ貿易指導 (一三二四)

綜一、本邦貿易ノ本質

二、現状トノ比較研究

份一、戰時貿易形態變化ノ趨向

二、戰後貿易ノ戰前復歸限度

七、東亞ニ關聯チ有スル各國ノ政策及國防

綜一、世界政策ト其對東亞政策 (一三九)

三、分、三、二、分、

- 二、國防形態ト其對東亞戰爭遂行能力
- 三、經濟形態ト其對東亞施策
- 四、歐米、東亞侵略經緯
- 份以上ニ關スル各國別檢討
- 八、皇國總力戰ノ要略 (一、一七)

除

綜一、皇國總力戰ノ本質本領ト其準備

二、皇國及日滿支並東洋ノ本質

三、國家建設及國家聯合ノ理念

四、皇國總力戰ノ基本原則

分一、史上國家ノ建設及獨立並民族解放ニ關スル檢討

二、戰爭形態及規模ニ關スル史的觀察

三、列國ノ戰爭準備

四、各別(國別、部門別、平戰時別)總力戰方策ノ檢討

口

大東亞共榮圈建設案 (一七八一三〇)

(綜) 一 建設目標

二 建設方略

三 國內建設

(備考)

以上ハ其實施ニ方リ當時ノ必要、研究生ノ程度能力並事前ニ於ケル
研究進度等ニ依リ取捨増減其宜シキニ隨フヘキモノトス

48

大 日 本 帝 國 政 府

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(國定規格B5(182×257))

49

大 日 本 帝 國 政 府

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(國定規格 516×377)

大日本帝國政府

八月以降研究室室制案

一室	浅野	玉腰	江口	芥川	夏目	巽山	小林
二室	双川	尾田	小山	山津	曾野	久保	黄河
三室	柳原	土井	熊谷	村上	中西	磐渊	
四室	山地	星野	伊藤	井上	藤卷	小池	須江
五室	佐久间	水野	川上	橋本	渡辺	鈴木	
六室	山本	高田	漆野	庵地	大塚	兼松	

總代 浅野

57

向野提本
所員打合



一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	月	日		
土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
鍛鍊旅行		歐洲戰史		基礎研究	國体主義	基礎研究	經濟戰史	外國情勢	經濟戰史	基礎研究	自宅研究	鍛鍊旅行											
		基礎研究		兵學新長講話	基礎研究	基礎研究	基礎研究																

昭和十七年總力戰研究所研究生日課表

○ 打合 塚本

○ 打合 塚本

備考	三 月	三 日	二 九	二 八	二 七	二 六	二 五	二 四	二 三	三 二	三 一	二 九	一 八	一 七	一 六
	外 國 情 勢		基 礎 研 究	基 礎 研 究	外 國 情 勢	外 交 戰 爭 義	民 族 內 部	外 國 情 勢	基 礎 研 究	基 礎 研 究	基 礎 研 究	外 國 情 勢	歐 洲 戰 史	思 想 戰 爭 義	外 國 情 勢
	基 礎 研 究														

